

1. 意見交換の目的

- 在宅療養の場における新型コロナは、訪問診療、訪問看護、訪問介護等の提供体制に大きな影響を与えている一方、病床のひっ迫により、重症化リスクの高い在宅療養患者が入院までの間自宅での待機が必要となる可能性もあり、地域の中でどのように患者・家族への支援を継続していくかが課題。
- そうした状況を踏まえ、本WGでは、在宅療養において新型コロナの陽性者が発生した場合に実際に対応できるか、また、今後在宅療養において感染症に適切に対応していくために、地域の中でどのような仕組みが必要かを参加者間で考え、更なる連携の構築に向けて議論を行った。

2. ワーキンググループで出された主な課題や意見、地域の取組

〈主な課題〉 訪問診療や訪問看護、訪問介護等の在宅支援の継続について

- 在宅医や訪問看護師、訪問ヘルパーなど、全員が同じ感染防護（フルPPE等）を行いながら在宅支援を継続することは、知識や経験の違い、資材の確保等の面からも難しい
- 診療所間や介護事業所間でも対応に温度差があり、また、陽性者の在宅支援は一事業所だけでの対応は困難

地域の取組

○地域の中で、在宅医や介護士等から構成される感染症対応チームを結成し、入院・入所までの間、在宅支援を行う体制を構築
○市内のコロナ患者受入病院の管理者、介護施設、在宅医等のほか、地域の小中学校、保健所などが一堂に参加するWEB連絡会を定期開催。患者の発生状況、各病院の受入状況の共有のほか、それぞれの不安点や疑問点や課題を共有し、連携体制を構築。

〈主な課題〉 介護職の感染防護に関するスキル、ノウハウについて

- 患者本人や主たる介護者が感染した場合でも、身体的介護、生活支援の面で介護職が担う役割は非常に大きい
- 一方で、感染防護に関する知識やスキルは医療職と比較して高くなく、サービス提供の継続が困難となる場合がある
- 介護職に対する感染防護に関する教育の機会を増やし、対応できる施設や事業所のすそ野を広げていく必要

地域の取組

○医療機関や医師会、行政が主導してオンライン研修会を企画し、新型コロナに関する正しい知識と、衛生、感染防御のノウハウ等について、動画や資料等を使った研修やPPEの着脱訓練を実施

- ◆各圏域で出された意見を取りまとめ、地域の課題や好事例等を共有し、横展開を支援していく。
- ◆地域の支援体制の構築や連携の強化に向け、区市町村在宅療養推進事業等を活用し支援していく。